



第3期 佐久穂町人口ビジョン（案）

令和7年2月

目次



第1章 はじめに	3
第2章 人口の現状分析	4
1. 人口の現状分析のまとめ	4
2. 人口の現状分析の詳細	5
(1) 総人口の推移と推計	5
(2) 自然増減の状況	7
(3) 社会増減の状況	9
(4) 通勤の分析	13
(5) 住民基本台帳による近年の社会増減の分析	15
(6) 転入者・転出者に対するアンケート結果の分析	20
第3章 人口の将来展望	29



I. 佐久穂町人口ビジョンの目的・背景

2014年12月、政府は、地方が成長する力を取り戻し、急速に進む人口減少を克服するべく、人口の現状と将来像を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、これを実現するための5か年にわたる施策の方向性等を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。2019年には第2期総合戦略が策定されました。その後、2022年12月に抜本的に改訂され、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」となっています。

本町においても、2015年度に「佐久穂町人口ビジョン」を作成し、人口減少に歯止めをかけるための各施策を実行してきましたが、総人口は当時の推計を上回るペースで減少し続けているなど、依然看過できない状況となっています。

本ビジョンは、引き続き人口減少に対応するため、人口の動向を改めて分析し課題を明らかします。また目標人口など、今後の人口の展望を示し、本町における総合戦略の企画立案に資することを目的に策定するものです。

2. 佐久穂町人口ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、2019年12月に公表された国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」および長野県の「しあわせ信州創造プラン3.0～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～」に示された将来の方向性や目標人口などを踏まえて策定するものとします。

また、本町における最上位の計画である「第2次佐久穂町総合計画」に示されている政策を踏まえつつ、「まち・ひと・しごと創生」にかかる政策を中心に取りまとめるものとします。

本人口ビジョンに示されている将来の方向性は、別途策定する「第3期佐久穂町コミュニティ創生戦略」における施策検討において参照するものとします。

3. 佐久穂町人口ビジョンの対象期間

次世代の佐久穂町を見据えるため、2050年までの人口推移等を分析します。

第2章 人口の現状分析



I. 人口の現状分析のまとめ

■ 総人口の推移と推計の分析

総人口は減少を続けており、2023年10月1日時点で9,800人となっており、第1期人口ビジョンを作成した2015年から1,385人減少（11,185人→9,800人）しています。

この間、年少人口および生産年齢人口は減少し、2023年時点で高齢化率は40%台となっています。

総人口は第1期人口ビジョン（2015年策定）で設定した目標人口を下回って推移しており、乖離が拡大しています。

■ 自然増減の分析

自然動態は、出生数の減少は続いている。合計特殊出生率は低下傾向であり、最新値は1.42と長野県の水準よりも低い状況です。15～49歳の女性の人口が減少続いている、出生数自体の減少する可能が高くなっています。

子ども・子育て等の総合的な施策の実施により、出生率の低下に歯止めをかけていくことが必要です。

■ 社会増減の分析

社会動態は、2015年～2019年の社会増減の平均は-62人／年ですが、2020年～2023年は-43人／年であり、社会減が緩和されています。2022年には7年ぶりに「社会増」を達成しています。2022年は30代の転入が好調であったことが社会増となつた要因となっています。

近年の純移動者数を男女で分けてみると、男性・女性ともに10代後半から20代前半までの流出が多くなっています。20代後半の転入数が低下傾向にあり、若年層の減少が顕著です。

通勤による流入・流出をみると「佐久市」が多く、ベッドタウンとなっています。転入元や転出先としても「佐久市」が多くなっています。佐久市など近隣自治体には転出超過の傾向が続いている。

■ 2021年～2024年の

転入者・転出者に対するアンケート結果

> 転入者の傾向

転入者は「単身世帯」の割合が高いですが、夫婦のみなど「それ以外の世帯」や「高校生以下の子どもがいる世帯」の割合も一定程度、見られます。そのため、転出者と比較し、配偶者や子どもがいる傾向にあります。

転入の理由としては「出身地である」が最も多く、次いで「生活環境や自然環境の良さ」となっています。高校生以下の子どもがいる層では、「教育」「生活環境や自然環境」を重視している傾向も見られます。

> 転出者の傾向

転出者は「単身世帯」の割合が高く、78.5%を占めます。転出の理由としては「就職・転勤」が最も多く、次いで「アパート等を借りた」「結婚」となっています。

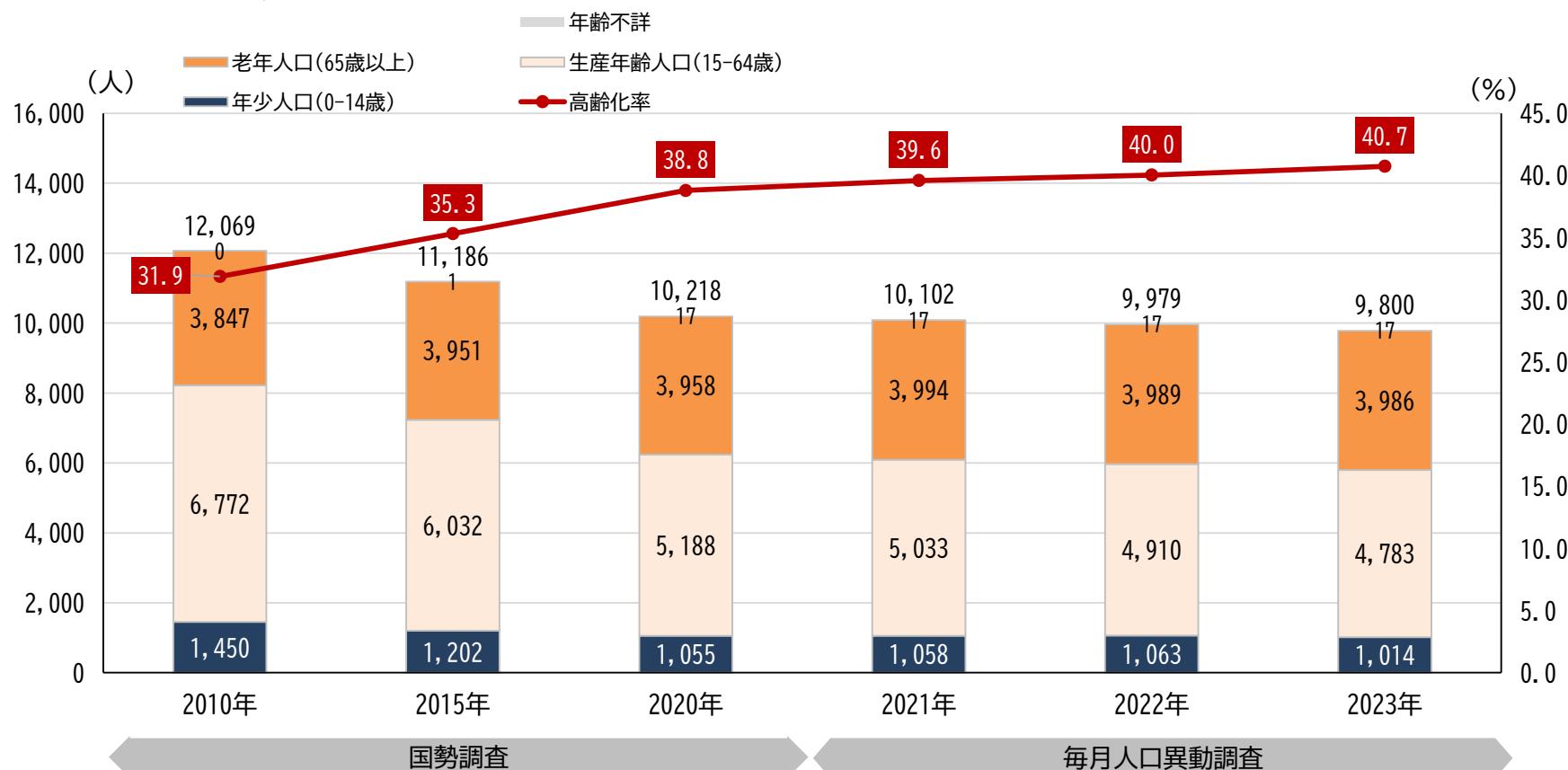
県外への転出者は「就職・転勤」が多く、県内への転出者は「アパートを借りた」「結婚」が多くなっています。なお、「結婚」による転出は、女性で高くなっています。



総人口は、10年間(2010→2020年)で1,851人減少

- 10年間(2010→2020年)の変化を年齢別にみると、年少人口は395人、生産年齢人口は1,574人減少しています。
- 一方、老人人口は118人増加し、高齢化率は6.9ポイント増加しています。
- 2021年以降も人口減少は続き、2023年時点では総人口は9,800人となり、高齢化率は40.7%まで上昇しています。

■佐久穂町の近年の人口推移



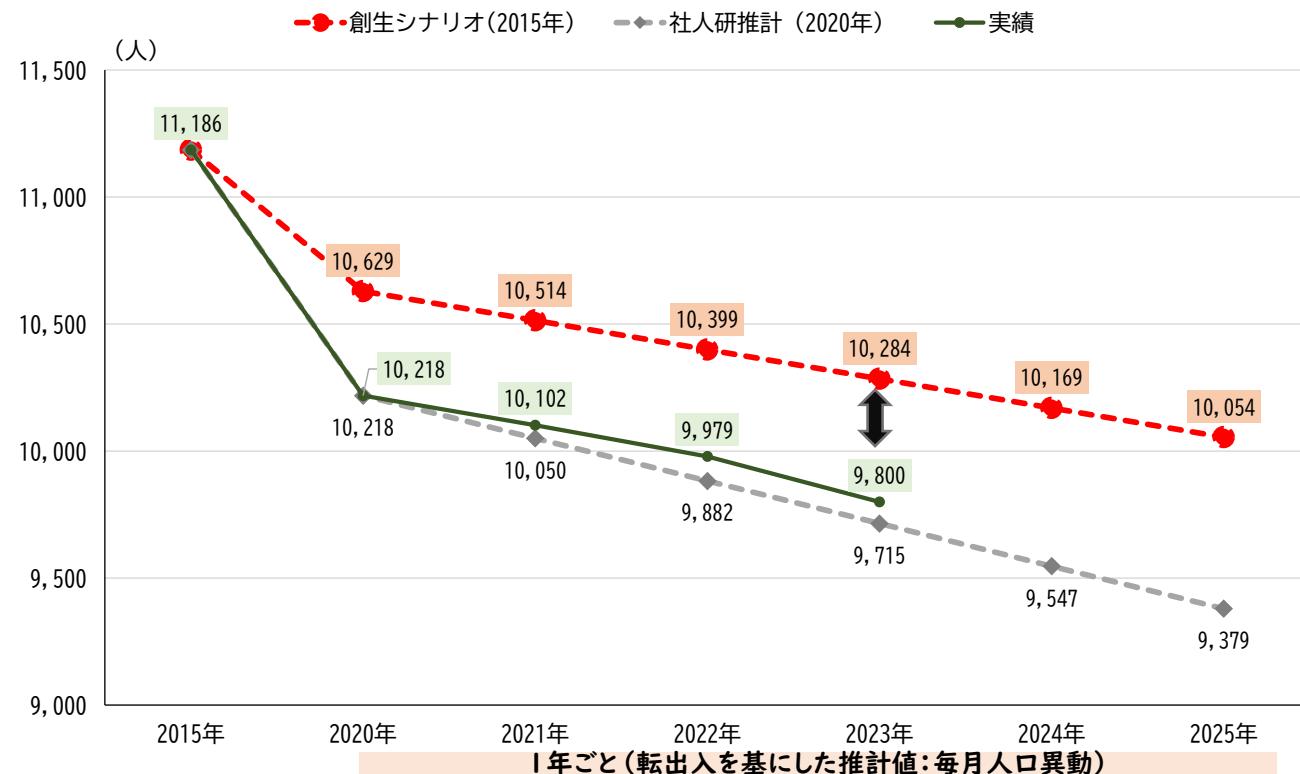
出典：2010年および2015年 総務省「国勢調査」
2010年、2015年以外 長野県「毎月人口異動調査」 各年10月1日



総人口は創生シナリオ(目標人口)を下回り、その差は拡大

- 総人口は第1期人口ビジョン（2015年策定）で設定した目標人口を下回って推移しており、目標人口と実績との差は拡大しています。
- 2021年以降の長野県「毎月人口異動調査」の推計人口をみると、国立社会保障・人口問題研究所の2020年を基点とした人口推計を上回り、推移しています。

■佐久穂町の目標人口と実績値



出典：実績値は2015年、2020年 総務省「国勢調査」。2015年、2020年以外 長野県「毎月人口異動調査」各年10月1日
目標値は2020年、2025年 第2期佐久穂町人口ビジョン創生シナリオにおける人口。
2020年、2025年以外 第1期佐久穂町人口ビジョンを元に各年で案分して算出
将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

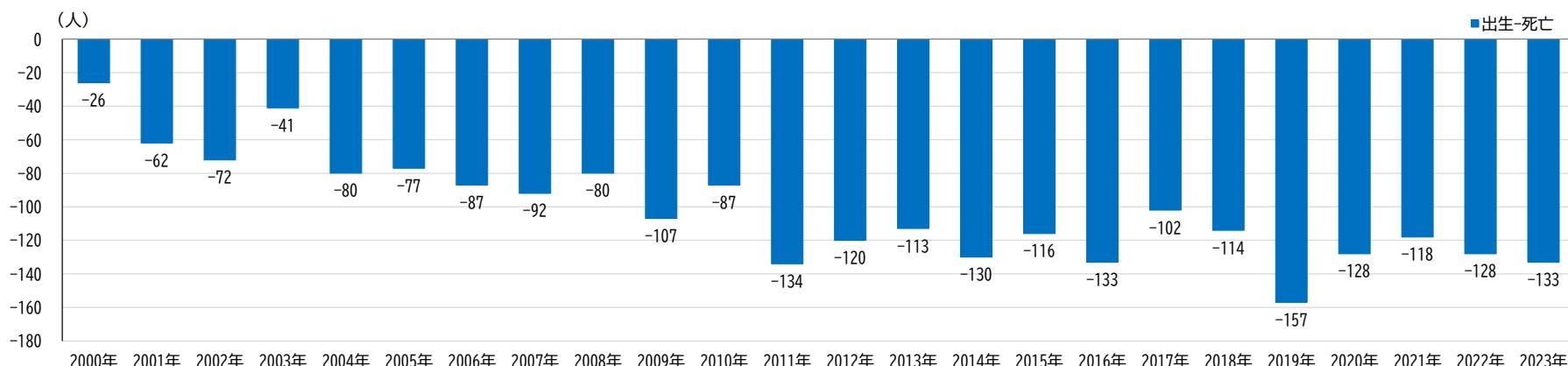
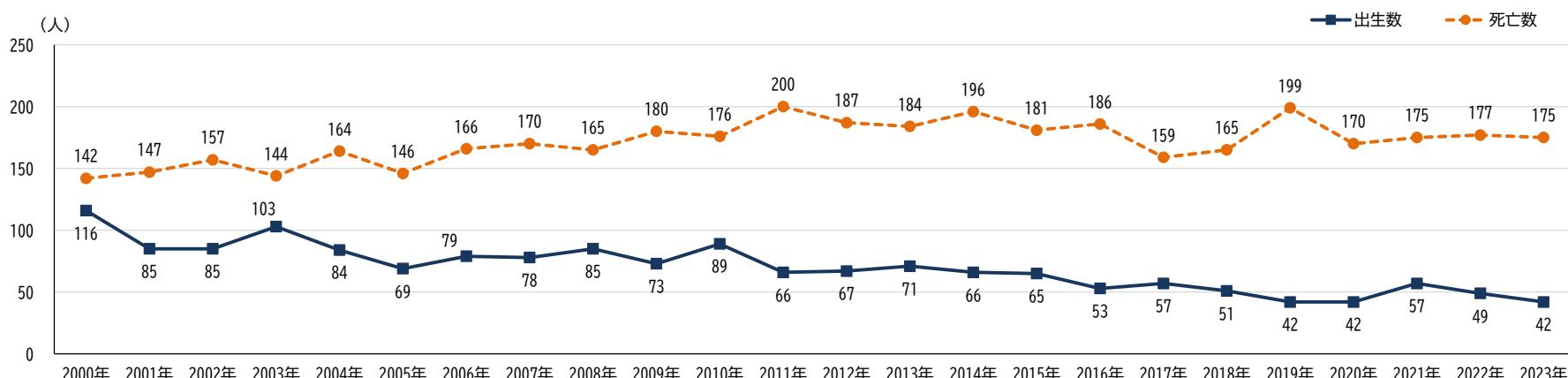
(2) 自然増減の分析



出生数は低下傾向にあり、自然減は続いている

- 自然増減をみると、死亡数は2020年以降、170人台を推移しています。
- 出生数は、2021年は57人と若干回復しましたが、その後は減少傾向にあり、2023年は42人となっています。

■ 自然増減の推移



総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

※2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。



合計特殊出生率は県の水準を下回る

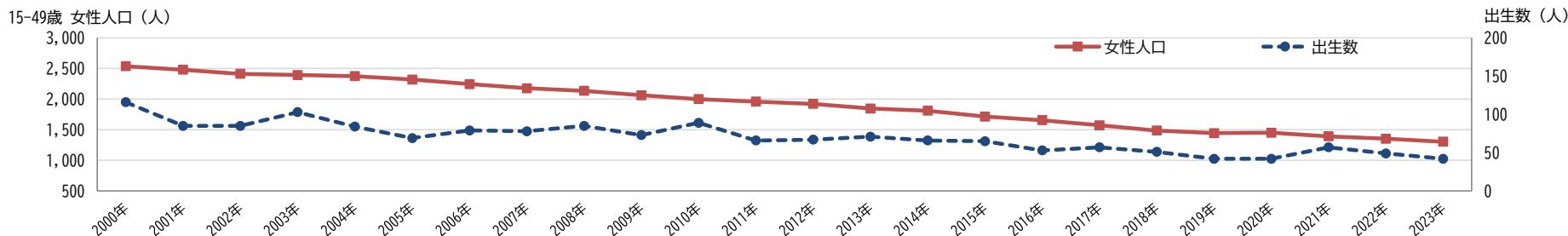
- 合計特殊出生率は2008～2012年に一時的に回復していますが、その後、低下しています。
- 町在住の15-49歳女性人口の減少が続いている
町全体の出生数は減少が続くと考えられます。

■合計特殊出生率

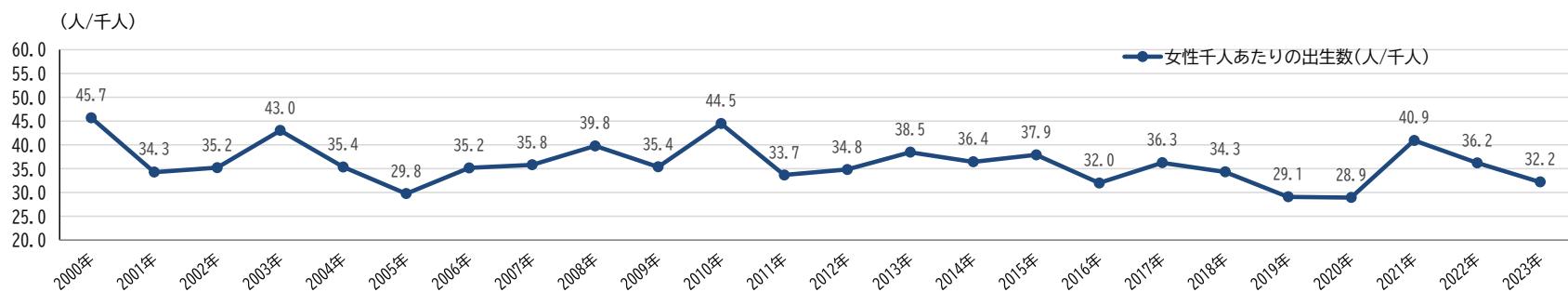


出典：人口動態保健所・市区町村別統計

■佐久穂町在住 15-49歳女性人口と出生数



■佐久穂町在住 15-49歳女性千人あたりの年間出生数



出典：女性人口：長野県「毎月人口異動調査結果報告」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

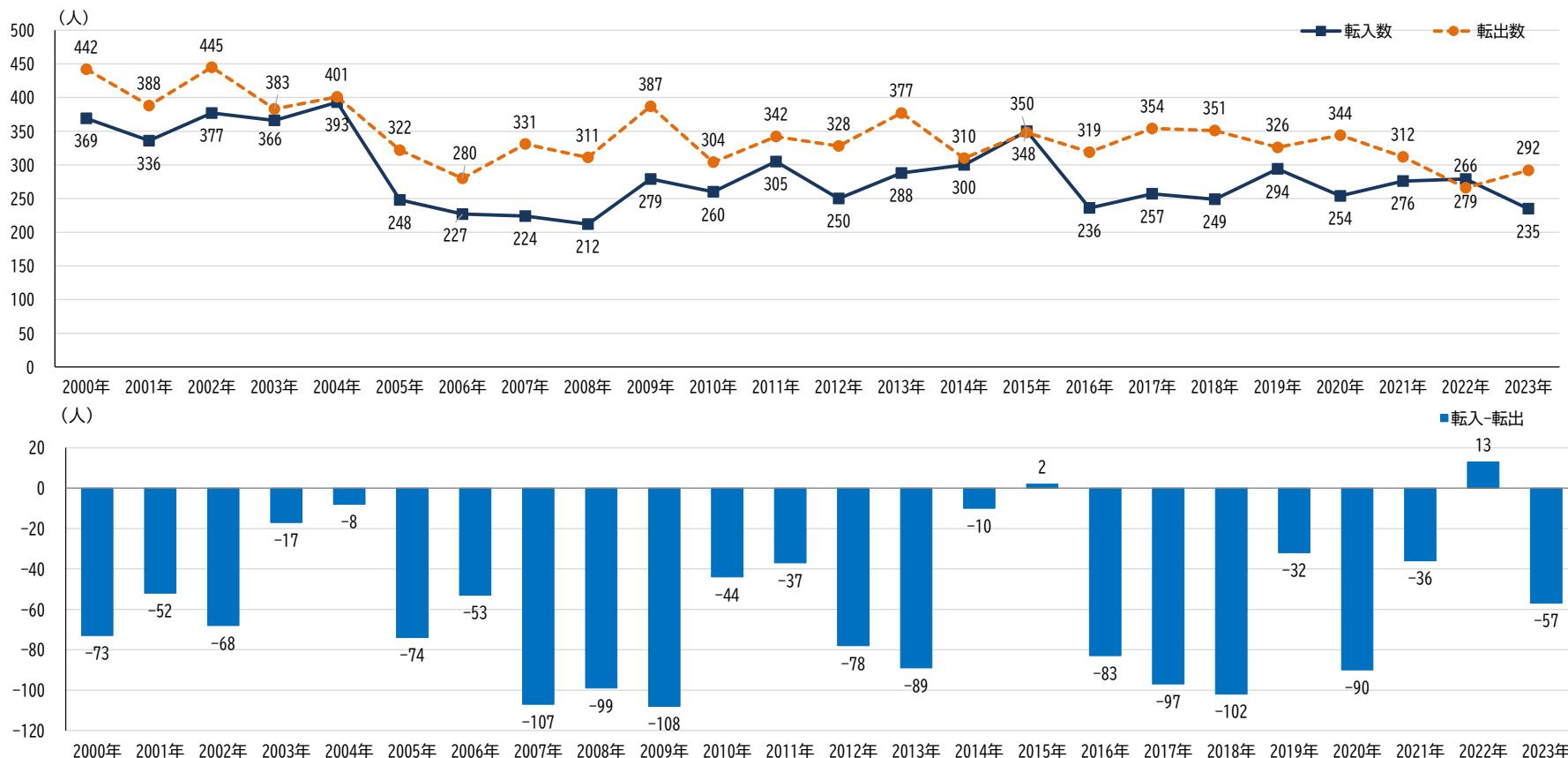


(3) 社会増減の分析

2022年は社会増を達成。第2期戦略の期間(2020年～2023年)は社会減が緩和

- 転入数、転出数をみると、2022年は7年ぶりに「社会増」となっています。2015年～2019年の社会増減の平均は-62人／年ですが、2020年～2023は-43人／年であり、社会減が緩和されています。

■社会増減の推移



総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

※2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

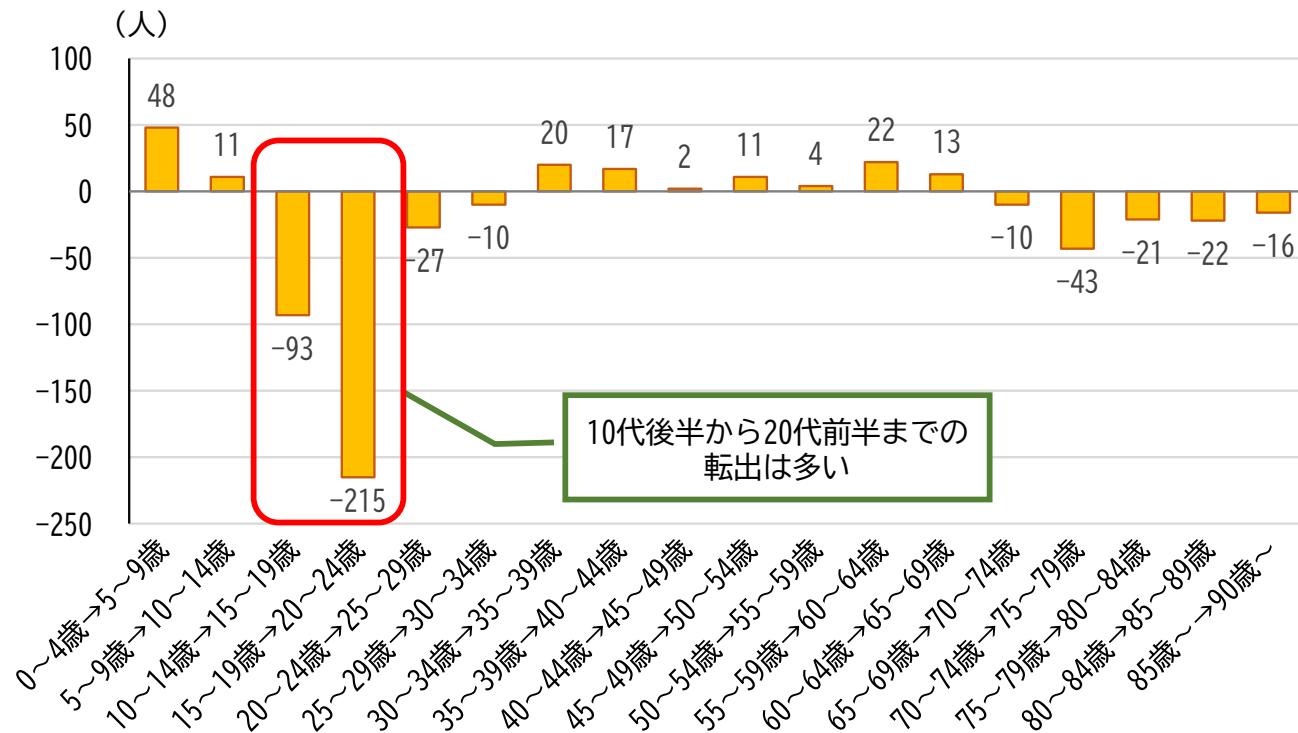


10代後半から20代前半の流出が多い

- 年代別の純移動数を見ると、10代後半から20代前半までの流出が多くなっており、この年代では進学や就職に伴う転出が多いと推測されます。
- 一方で、通常、転出が多くなる未就学（0～4歳→5～9歳）で転入超過となっており、就学に伴う転出が他の自治体と比較して少ないことが考えられます。

■年代別純移動※の分析（2010～2015年実数）【総数】

※純移動数：転入数－転出数



出典：内閣府「RESAS 人口マップ」

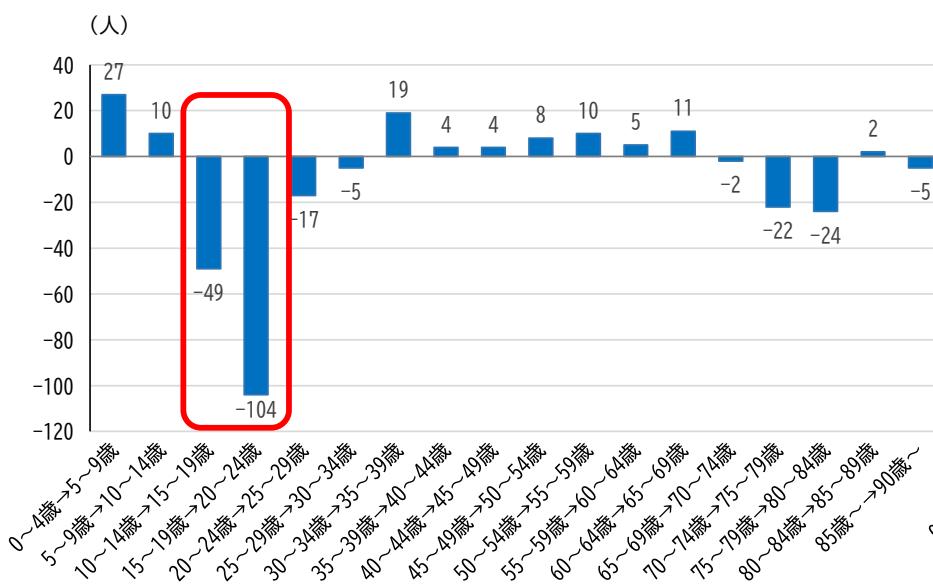


男女ともに10代後半から20代前半の流出が多い

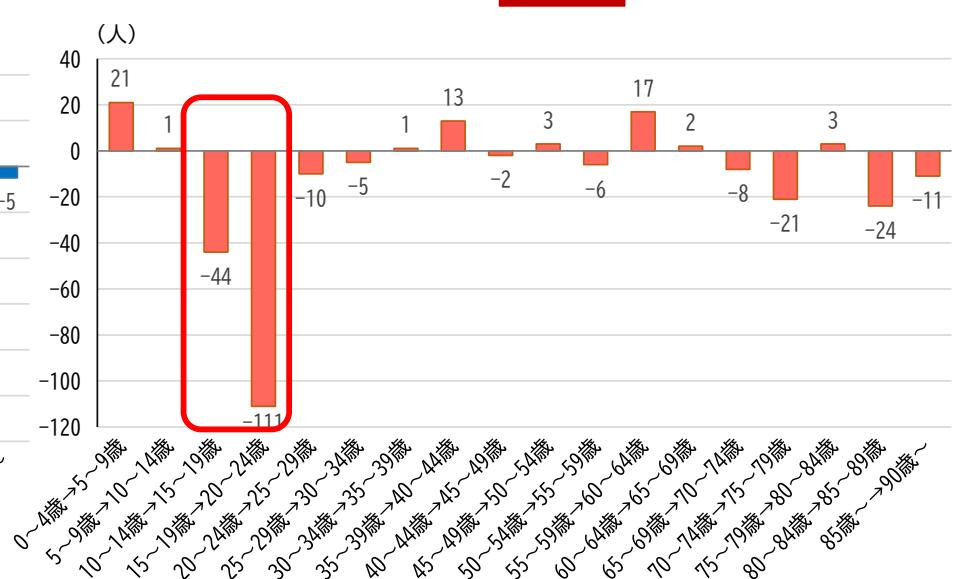
- 年代別の純移動者数を男女で分けてみると、男性・女性ともに10代後半から20代前半までの流出が多くなっています。

■年代別純移動の分析(2010~2015年実数)【男女別】

男性



女性



出典：内閣府「RESAS 人口マップ」

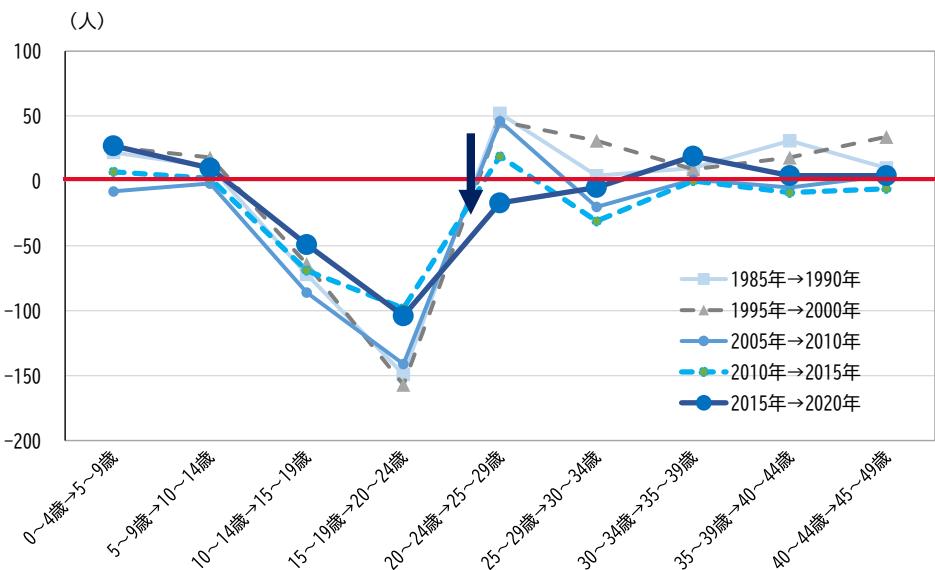


20代後半がマイナス傾向

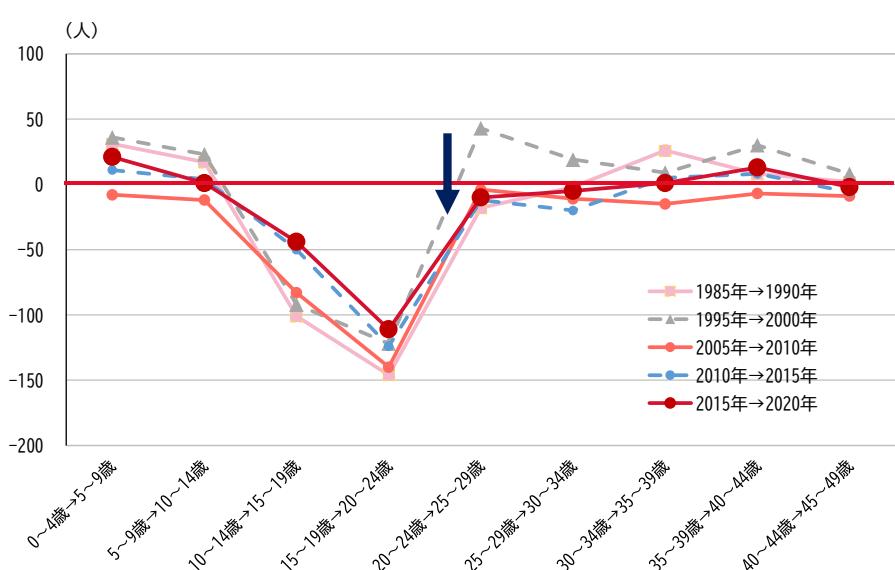
- 年代別の純移動者数の経年変化を男女別に見ると、男女ともに10代後半、20代前半の減少幅が減りつつあります。この世代の人口減少が影響していると考えられます。
- 近年、20代後半は、男女ともに転入数より転出数が多く、マイナスになっており、転入の更なる促進が必要です。

■年代別社会増減の長期的推移 【男女別】

男性



女性



出典：内閣府「RESAS 人口マップ」

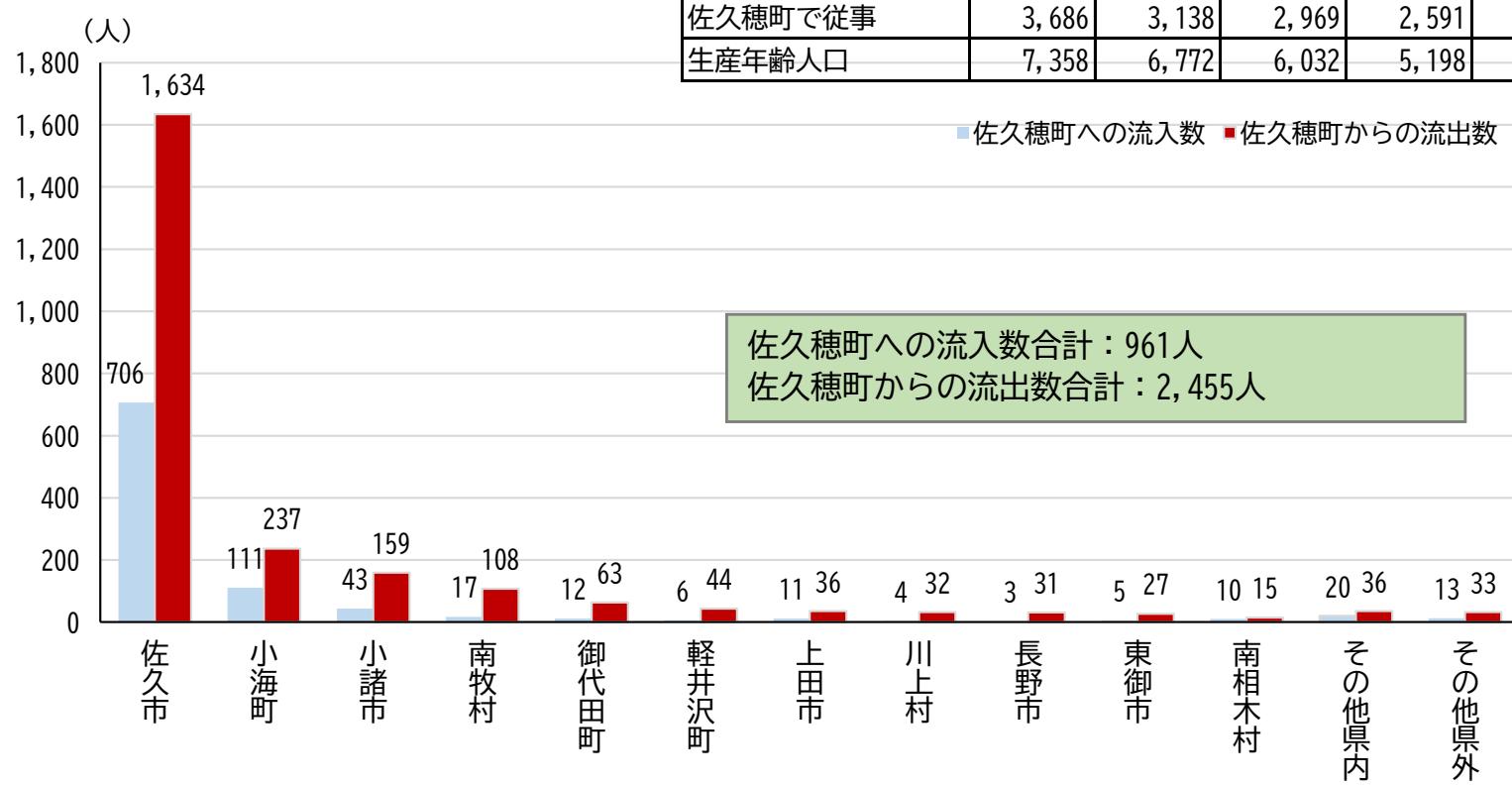
(4) 通勤の分析



町外にて働く人が多い。特に「佐久市」への通勤者が多く、ベッドタウンとなっている

- 佐久穂町町内で働く人は2,591人であり、生産年齢人口の減少に比例し、減っています。
- 佐久穂町への通勤による流入数は961人であるのに対して、佐久穂町からの通勤による流出数は2,455人に上り、町外に働きに行っている人が多くなっています。
- 特に佐久市へ通勤に行く人が多く、佐久市のベッドタウンになっている状況です。

■ 通勤による流入・流出の状況



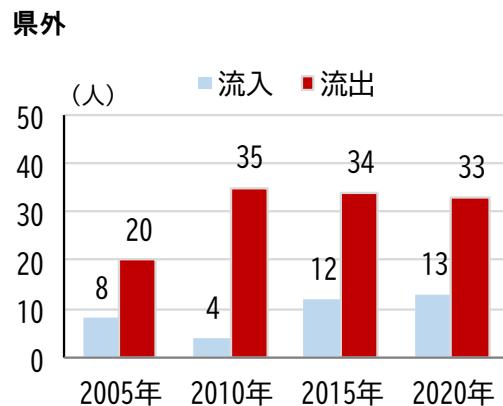
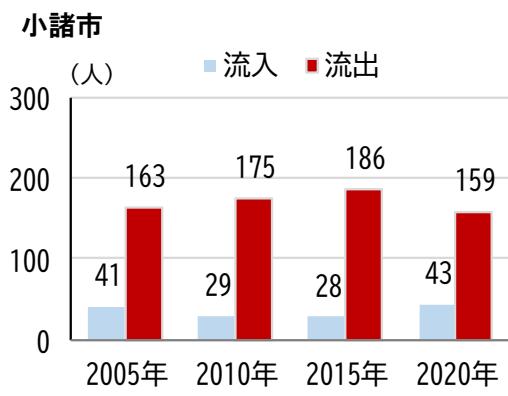
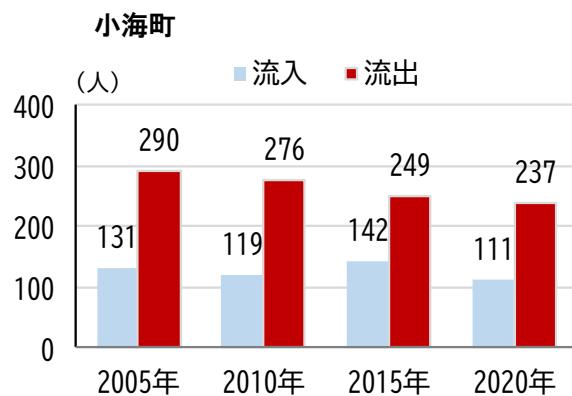
出典：総務省「国勢調査」2020年



町外の通勤先としては2005年以降、「佐久市」「小海町」「小諸市」の順を維持

- 主な通勤先について経年でみると、佐久市に通勤に行っている人が最も多い状況が続いているですが、本町の人口減少もあり、その人数は減っています。次いで、小海町、小諸市となっています。小海町への通勤者も減少傾向です。

■主な通勤先との間の流入・流出の推移



出典：総務省「国勢調査」

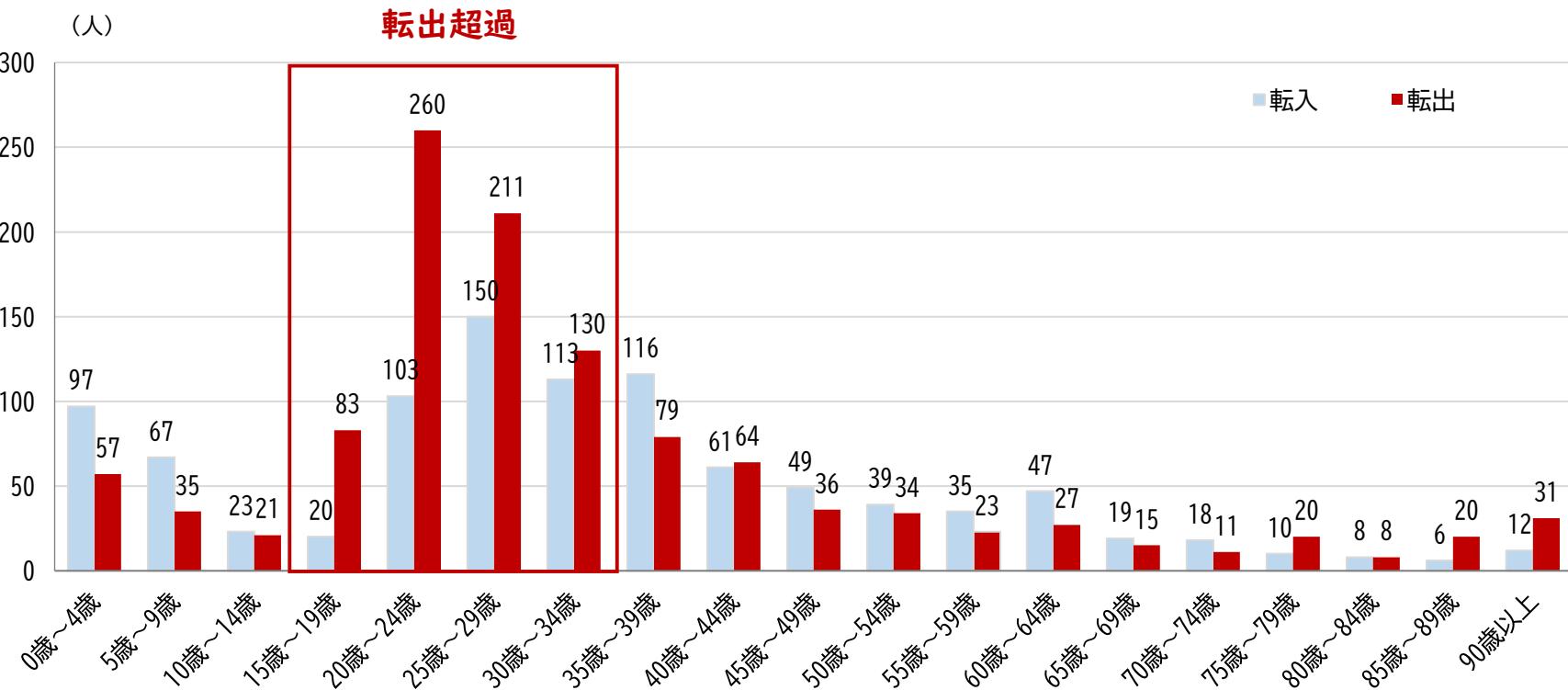
(5) 住民基本台帳による属性別の社会増減の分析



20代～30代前半は転出超過。30代後半から転入超過になる

- 年代別に転入・転出者数を見ると、9歳までは転入超過しており、子育て世代が転入していると考えられます。
- 一方で、転出者は、10代後半から30代前半が多くなっています。特に20代前半が多い状況です。

■年代別転入・転出数(2018年～2023年)



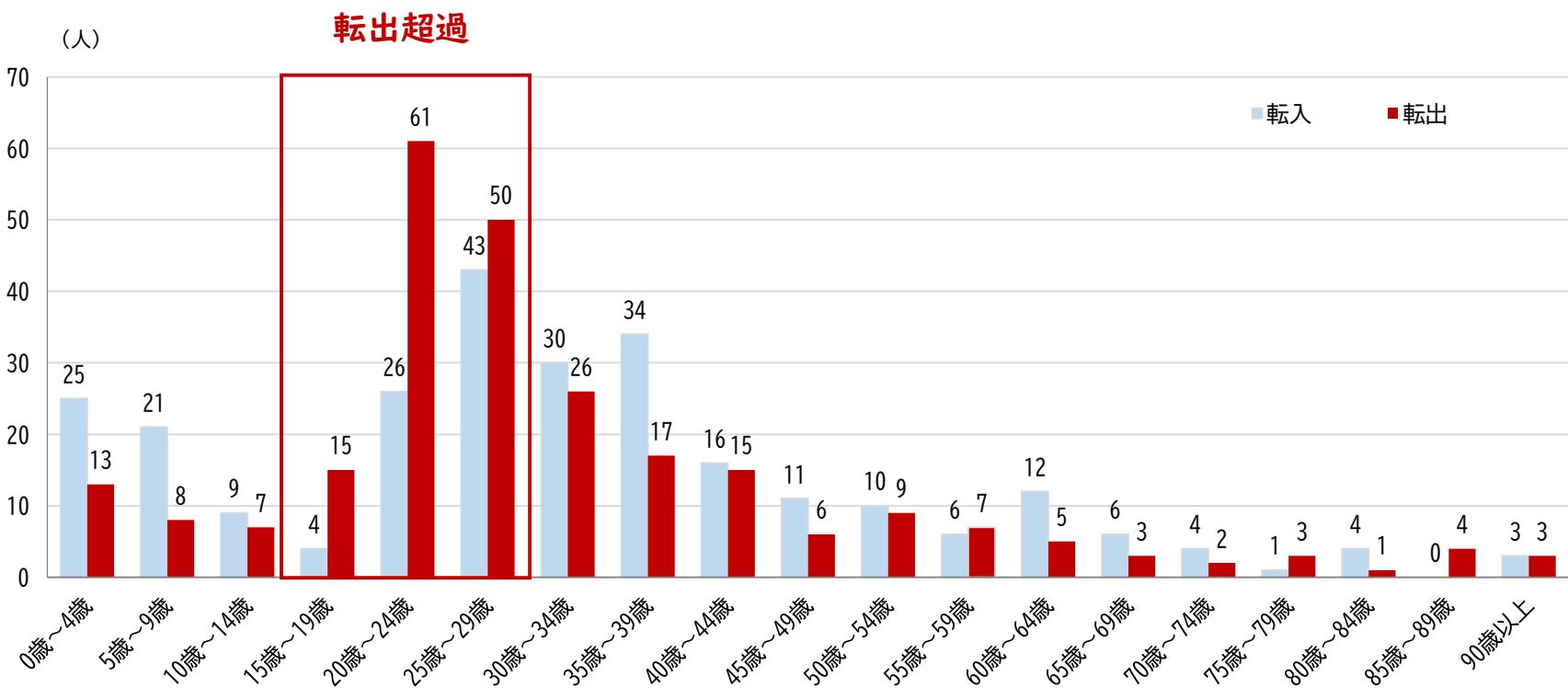
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



社会増であった2022年の傾向：10代後半～20代は以外は、主に転入超過を達成

- 2022年の転入・転出者数を年代別に見ると、30代前半から転入超過となっています。また、30代後半の転入超過の幅も大きくなっています。

■年代別転入・転出数（2022年）



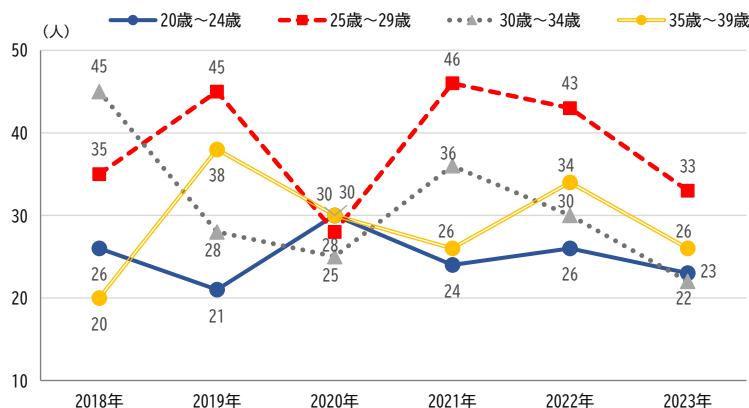
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



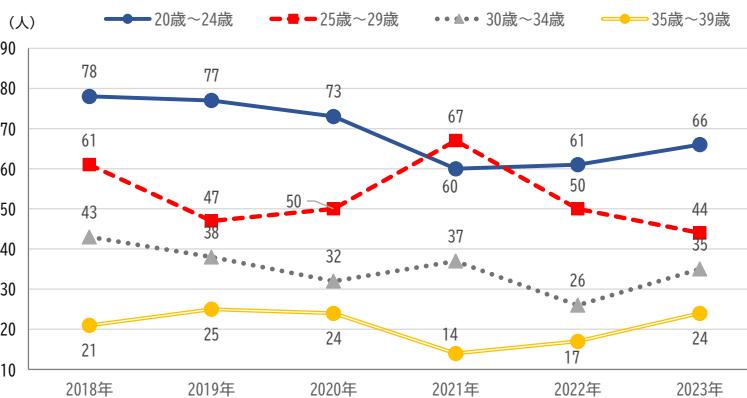
20代～30代の転出入は変動している

- 20代から30代の転入者数、転出者数の推移をみると、転入では増加や減少の傾向ははっきりと見られません。
- 女性に限定してみると、2019年に20代後半の女性転入者が増加しています。

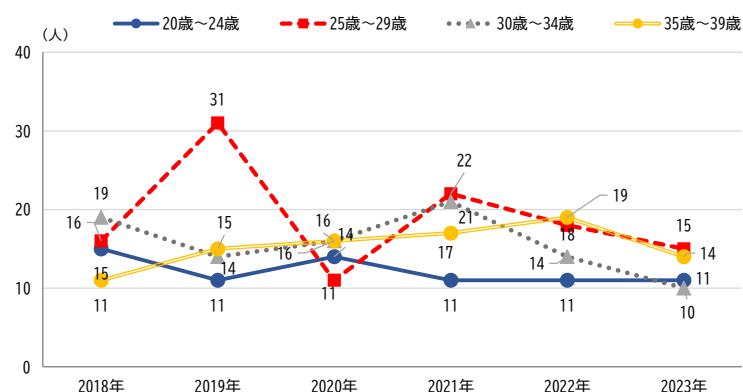
■20代～30代の転入数の推移



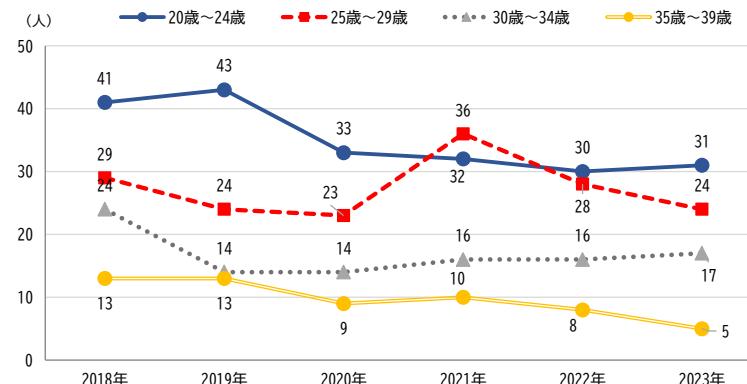
■20代～30代の転出数の推移



■20代～30代 女性の転入数の推移



■20代～30代 女性の転出数の推移



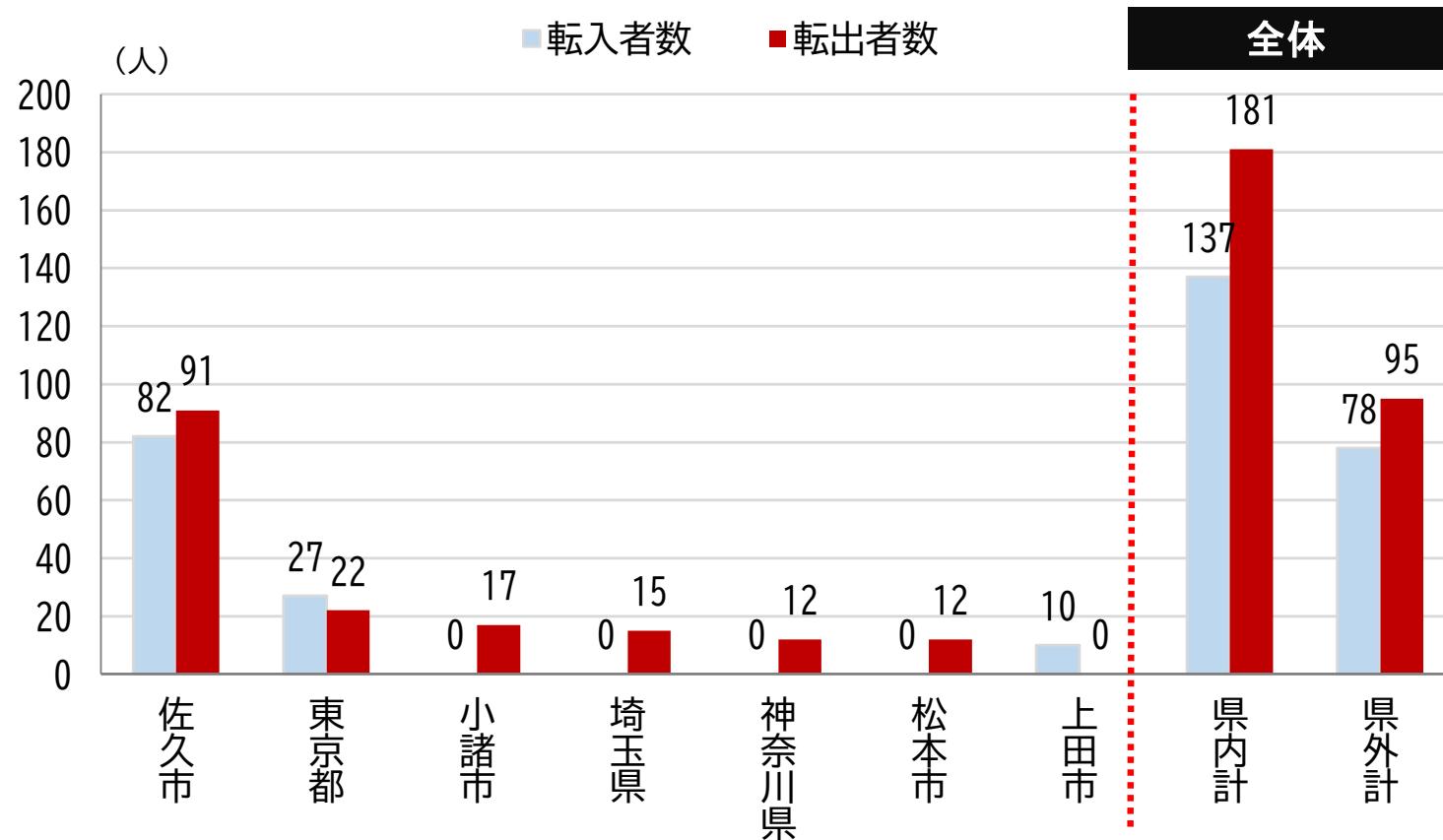
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



転入元・転出先が多いのは県内は「佐久市」。2023年「東京都」からは転入超過。

- 転入元・転出先をみると、通勤者も多い「佐久市」最も多くなっています。県内の転出先をみると、次いで「小諸市」「松本市」になっています。
- 「東京都」は、転出者数より転入者数が多くなっています。

■転入元・転出先(2023年)



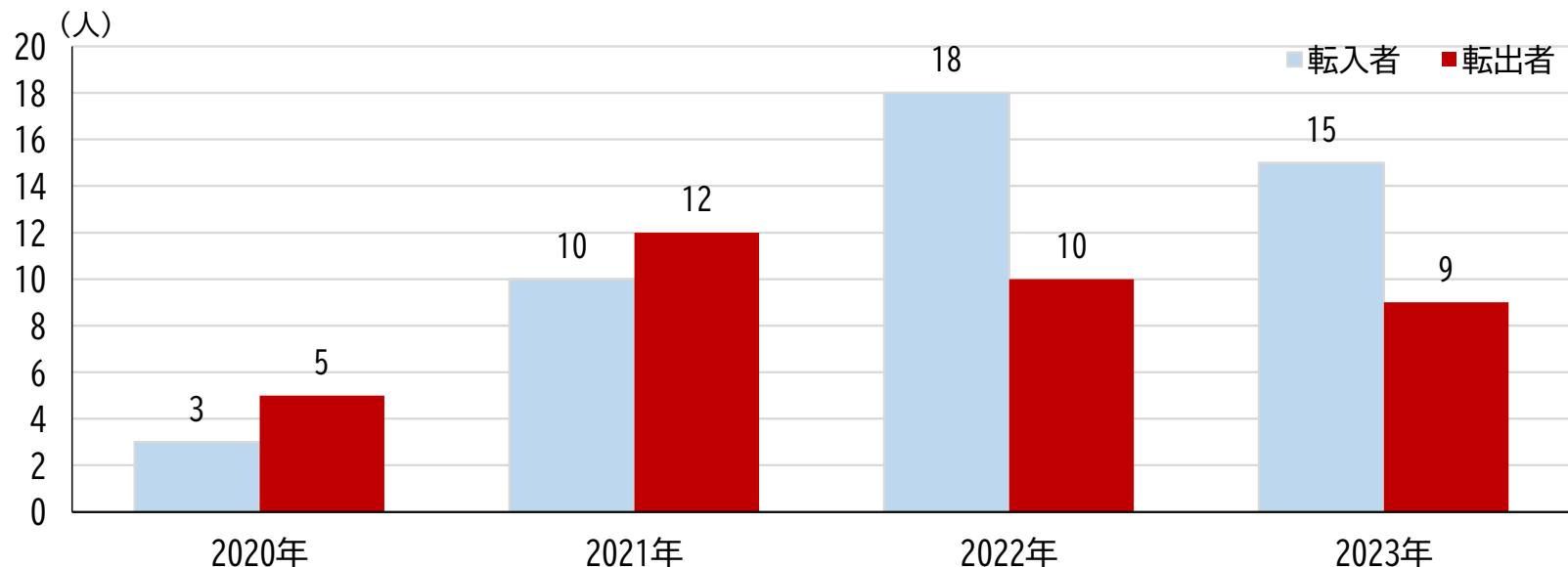
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



外国人住民は転入超過傾向が続いている

- 外国籍住民の転入・転出者数をみると、2022年以降の新型コロナウイルス感染症が収束してからは転入超過となっています。

■外国人住民の転入・転出者数



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(7) 転入者・転出者に対するアンケート結果の分析



■回収数

転入者に対するアンケート：219票
転出者に対するアンケート：214票

■回収期間

2021年4月～2024年7月
2021年4月～2024年8月

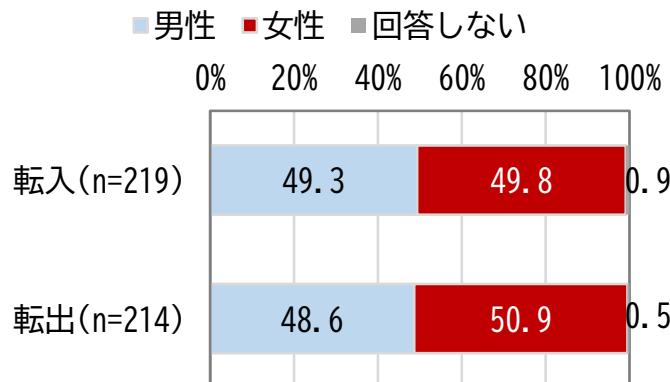
■設問内容

性別、年代、世帯、出身地、転入元
・転出先、転入理由・転出理由

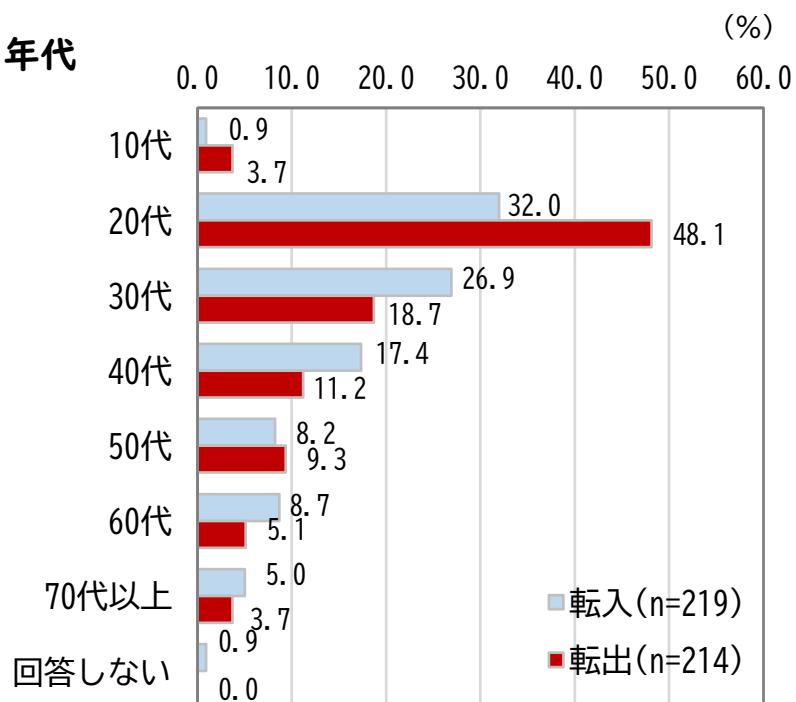
転出者、転入者ともに20代の比率が高い。特に転出者で突出して高い

- 転入者、転出者の男女比率は半々です。
- 年代を見ると、転出者、転入者ともに20代の比率が高く、次いで30代となっています。

■性別



■年代



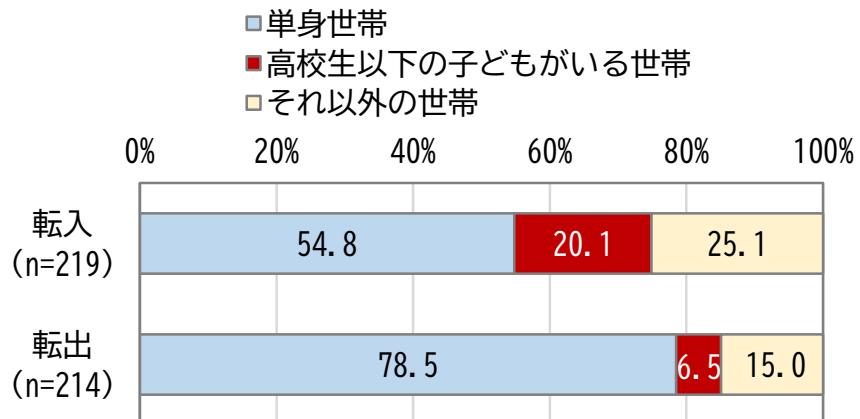
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



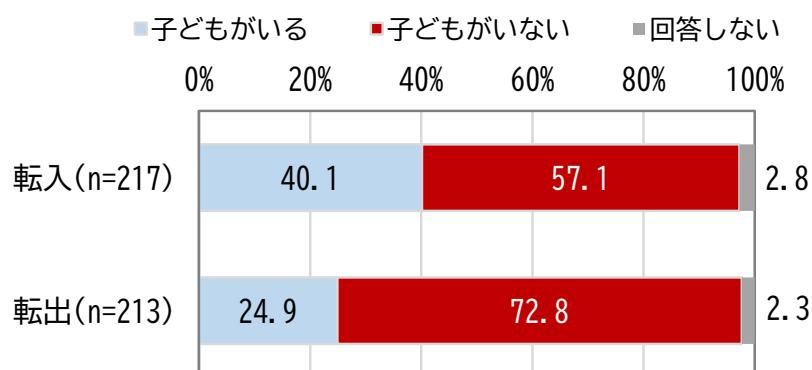
転出者、転入者ともに「単身世帯」の割合が高い。特に転出者でその割合が高い。

- 世帯構成をみると、転出者、転入者ともに「単身世帯」の割合が高くなっています。特に転出者で「単身世帯」の割合が高くなっています。転入者では、夫婦のみなど「それ以外の世帯」や「高校生以下の子どもがいる世帯」の割合も一定程度見られます。
- そのため、結婚状況、子どもの有無等をみると、転入者で配偶者や子どもがいる割合が高くなっています。

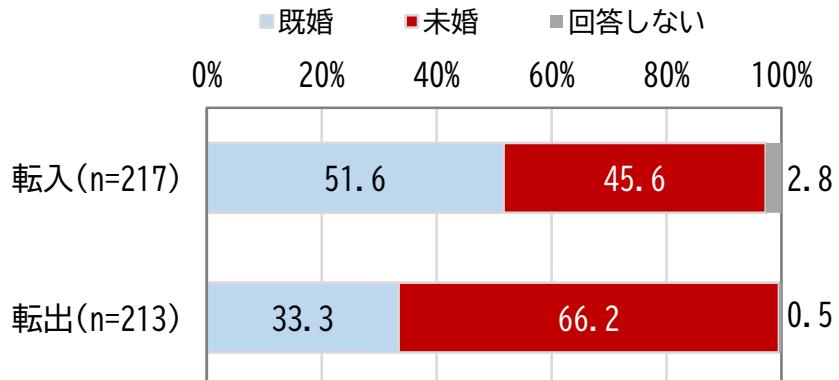
■世帯構成



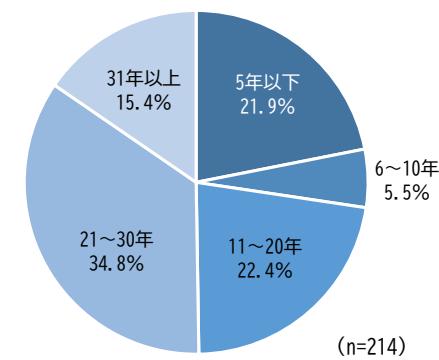
■子どもの有無



■結婚の状況



■転出者の居住年数



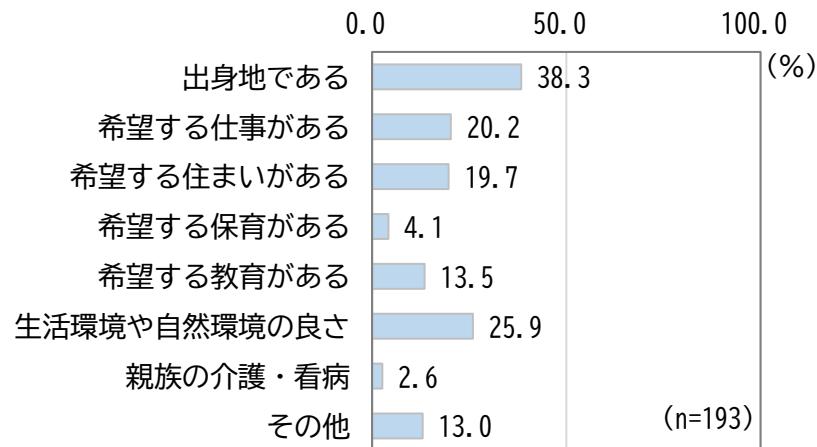
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



転入理由は「出身地」「生活環境や自然環境」をあげる人が多い。

- 転入の理由として「出身地である」が38.3%と最も高く、次いで「生活環境や自然環境の良さ」が25.9%となっています。
- 希望する仕事は「農業」が多く、希望する住まいは「購入（新築）」「賃貸（アパート）」の順です。希望する保育は「町立保育園」の割合が高く、教育では「大日向小・中学校（イエナプラン教育）」をあげる人が多くなっています。

■転入者の分析～転入理由



	人数	割合 (%)
出身地である	74	38.3
希望する仕事がある	39	20.2
希望する住まいがある	38	19.7
希望する保育がある	8	4.1
希望する教育がある	26	13.5
生活環境や自然環境の良さ	50	25.9
親族の介護・看病	5	2.6
その他	25	13.0
回答者数	193	

●希望する仕事

- ・39人中17人が「農業」
- ・ほか、建設業、保育士、など

●希望する住まい

	人数	割合 (%)
購入(新築)	11	35.5
購入(中古)	6	19.4
賃貸(一戸建)	7	22.6
賃貸(アパート)	9	29.0
回答者数	31	

●希望する保育

	人数	割合 (%)
町立保育園	5	71.4
森のようちえん	2	28.6
合計	7	100.0

●希望する教育

	人数	割合 (%)
佐久穂小・中学校	5	20.0
大日向小・中学校（イエナプラン教育）	20	80.0
合計	25	100.0

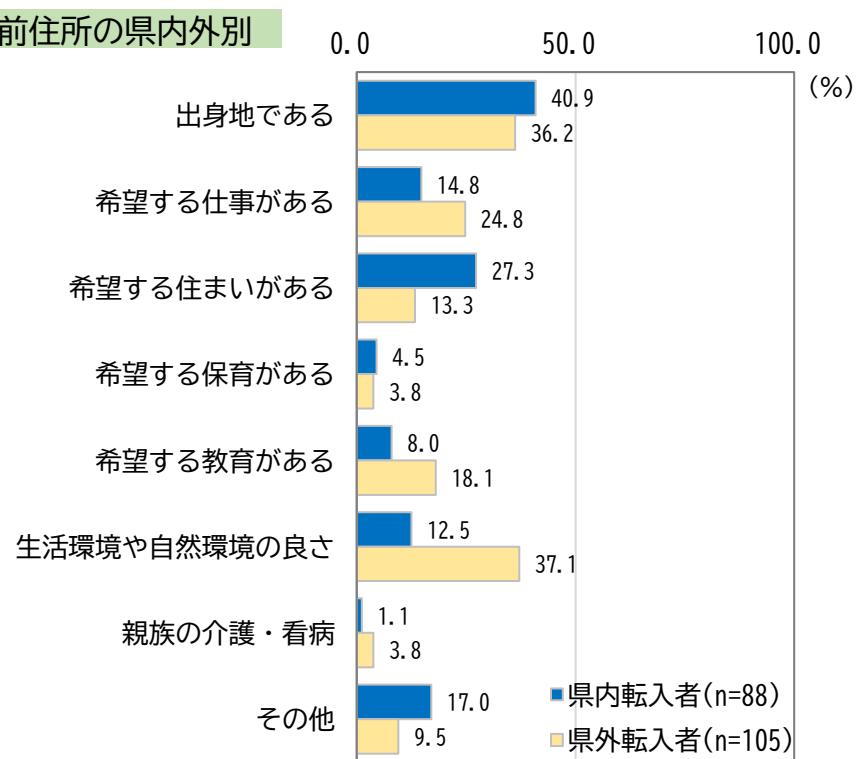
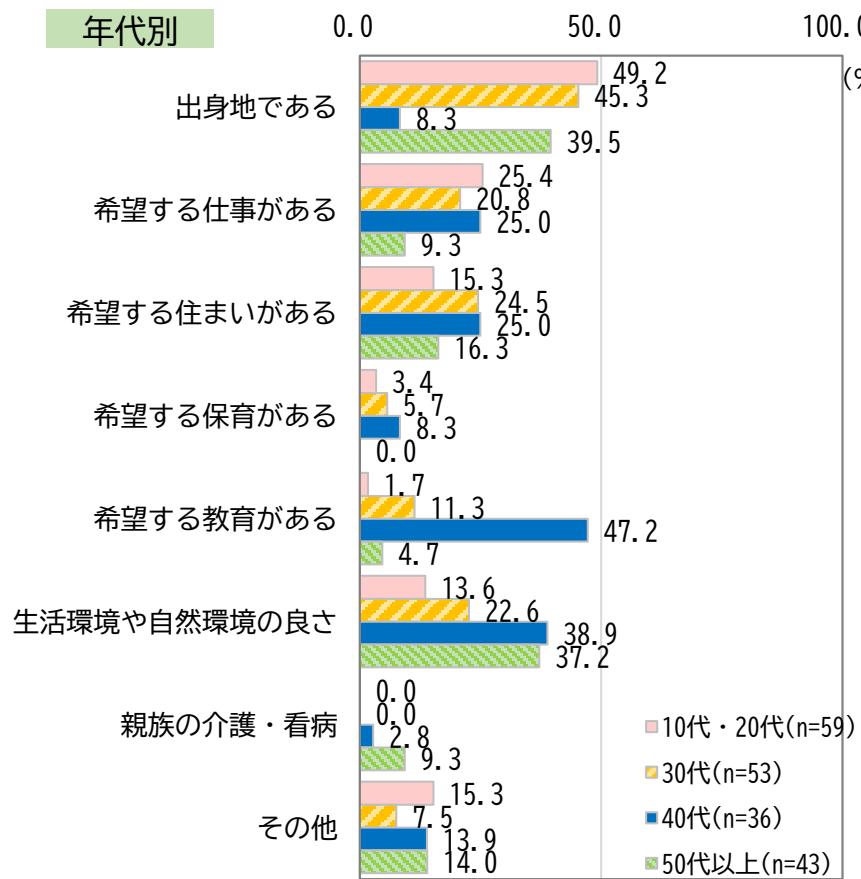
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



県外転入者は「生活環境や自然環境」「教育」「仕事」を転入理由としてあげる

- 年代別に転入の理由をみると、20代、30代は「出身地である」の割合が高く、40代は「希望する教育がある」「生活環境や自然環境の良さ」が高くなっています。50代以上になると「出身地である」「生活環境や自然環境の良さ」であり、年代により傾向に違いが見られます。
- 前住所の県内外別にみると、県内からの転入者は「希望する住まいがある」、県外からの転入者は「生活環境や自然環境の良さ」「希望する仕事」「希望する教育がある」が高い傾向にあります。

■転入者の分析～転入理由の詳細分析①



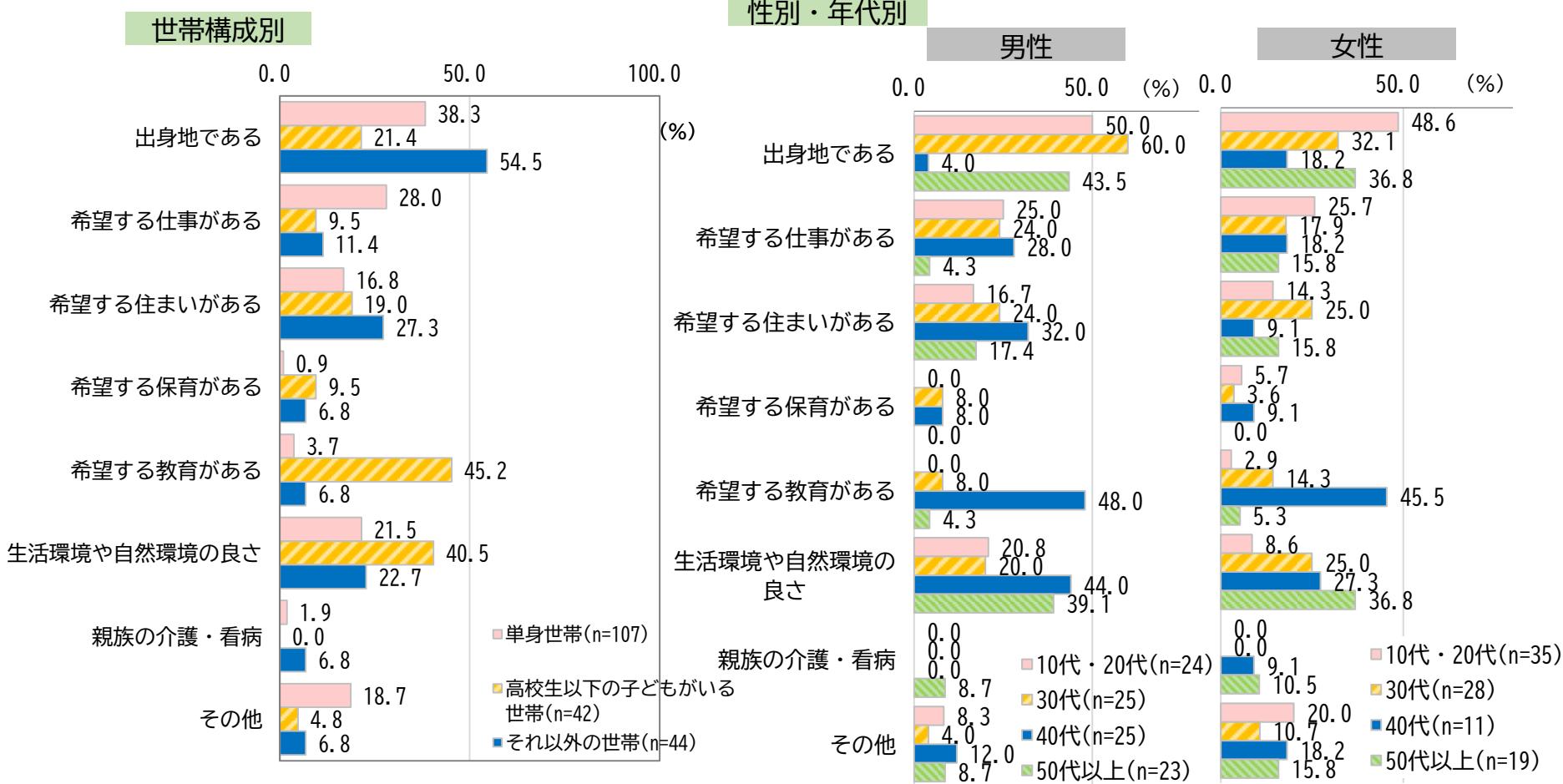
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



ファミリー層は「教育」「生活環境や自然環境」を重視

- 世帯構成別に転入の理由をみると、単身世帯は「出身地である」、高校生以下の子どもがいる世帯は「希望する教育がある」「生活環境や自然環境の良さ」の割合が高くなっています。

■転入者の分析～転入理由の詳細分析②

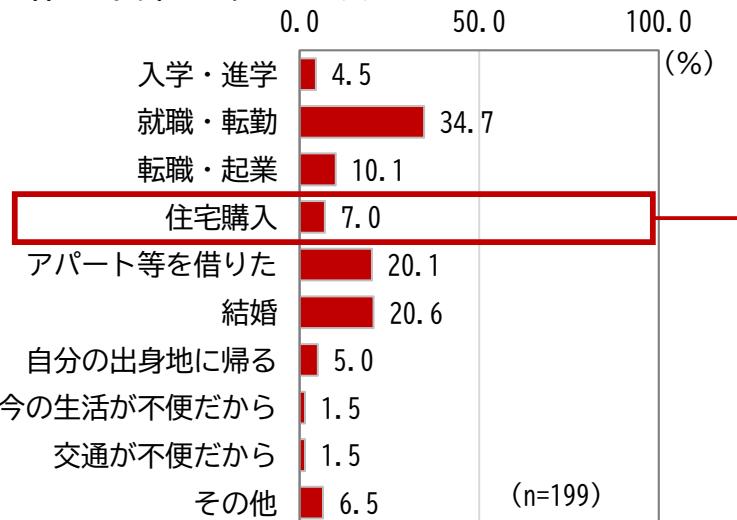




転出理由は男女ともに「就職・転勤」が最多。女性は次いで「結婚」

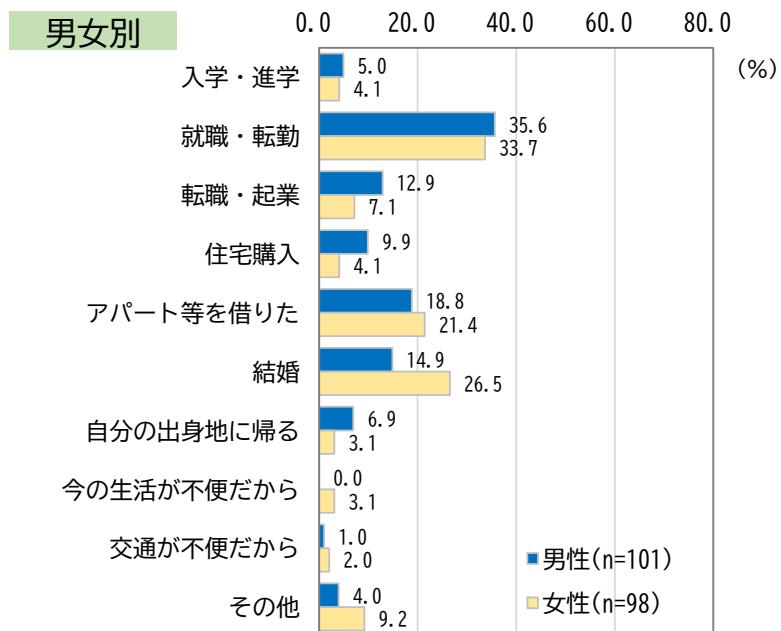
- 転出の理由としては、「就職・転勤」の割合が最も高く、次いで「結婚」「アパートを借りた」の割合が高くなっています。なお、住宅購入は「新築」「中古住宅」が半々です。
- 男女別の転出理由としては、ともに「就職・転勤」の割合が高いですが、次に高い項目をみると、男性は「アパートを借りた」、女性は「結婚」が高くなっています。

■転出者の分析～転出理由



	人数	割合 (%)
入学・進学	9	4.5
就職・転勤	69	34.7
転職・起業	20	10.1
住宅購入	14	7.0
アパート等を借りた	40	20.1
結婚	41	20.6
自分の出身地に帰る	10	5.0
今の生活が不便だから	3	1.5
回答者数	199	

■転出者の分析～転入理由の詳細分析①



●「住宅購入」の詳細

	人数	割合 (%)
新築	6	50.0
中古住宅	6	50.0
合計	12	100.0

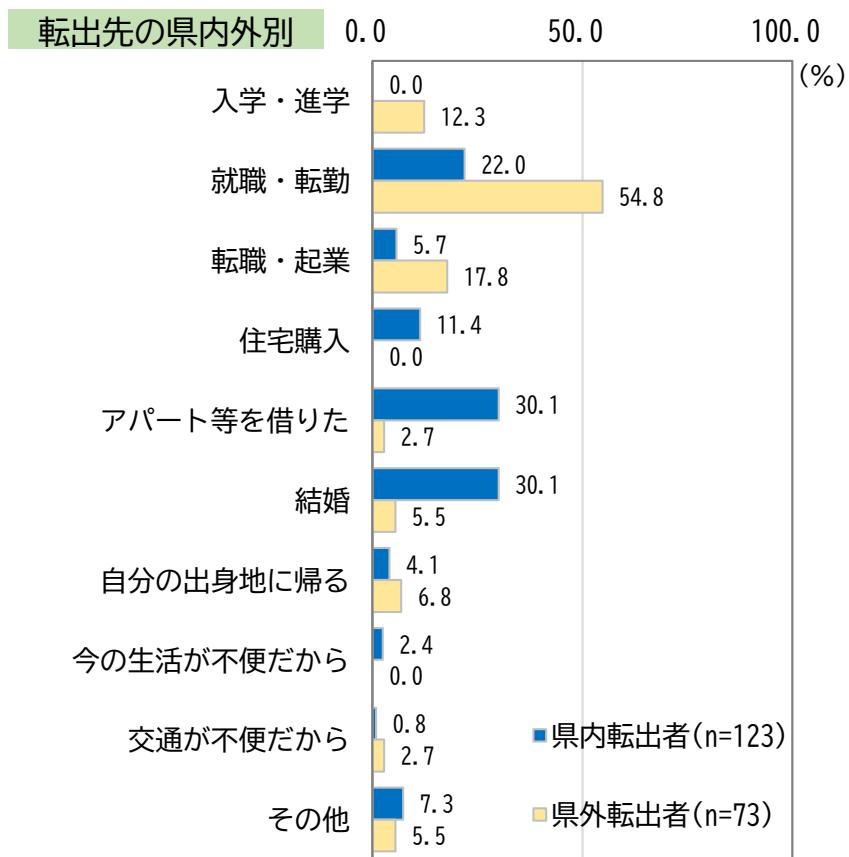
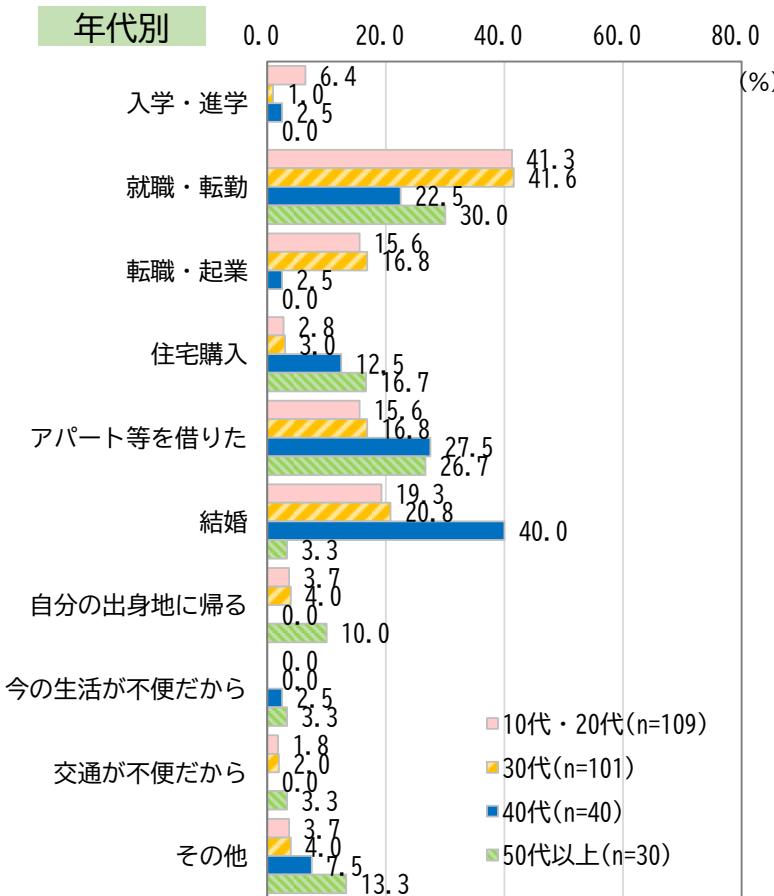
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



20代、30代、50代以上は「就職・転勤」、40代は「結婚」 県内(主に佐久市)に「アパートを借りた」割合も高い

- 年代別にみると、20代、30代、50代以上は「就職・転勤」、40代は「結婚」の割合が高くなっています。
- 転出先の県内外別にみると、県内への転出者は「アパートを借りた」「結婚」「就職・転勤」の割合が高くなっています。県内の転出先は佐久市が多くなっています。県外への転出者は「就職・転勤」が突出して高くなっています。

■転出者の分析 ~転出理由の詳細分析②



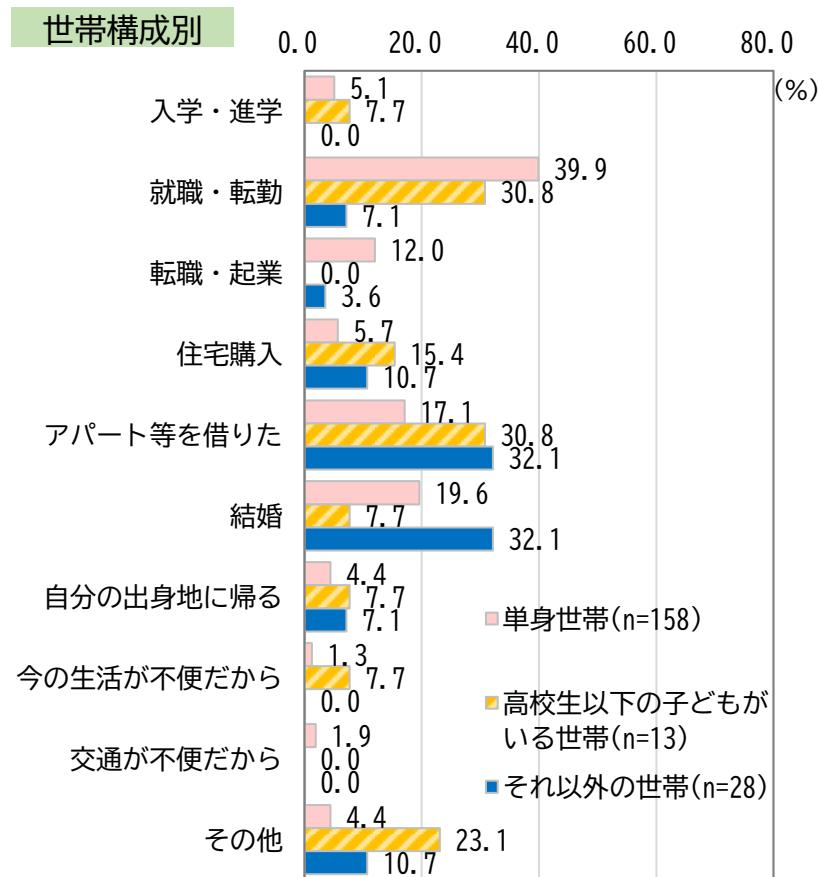
出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



単身世帯は「就職・転勤」の割合が高い

- 世帯構成別にみると、単身世帯は「就職・転勤」の割合が高くなっています。高校生以下の子どもがいる世帯は「就職・転勤」「アパートを借りた」の割合が高くなっています。

■転出者の分析～転出理由の詳細分析③



出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」

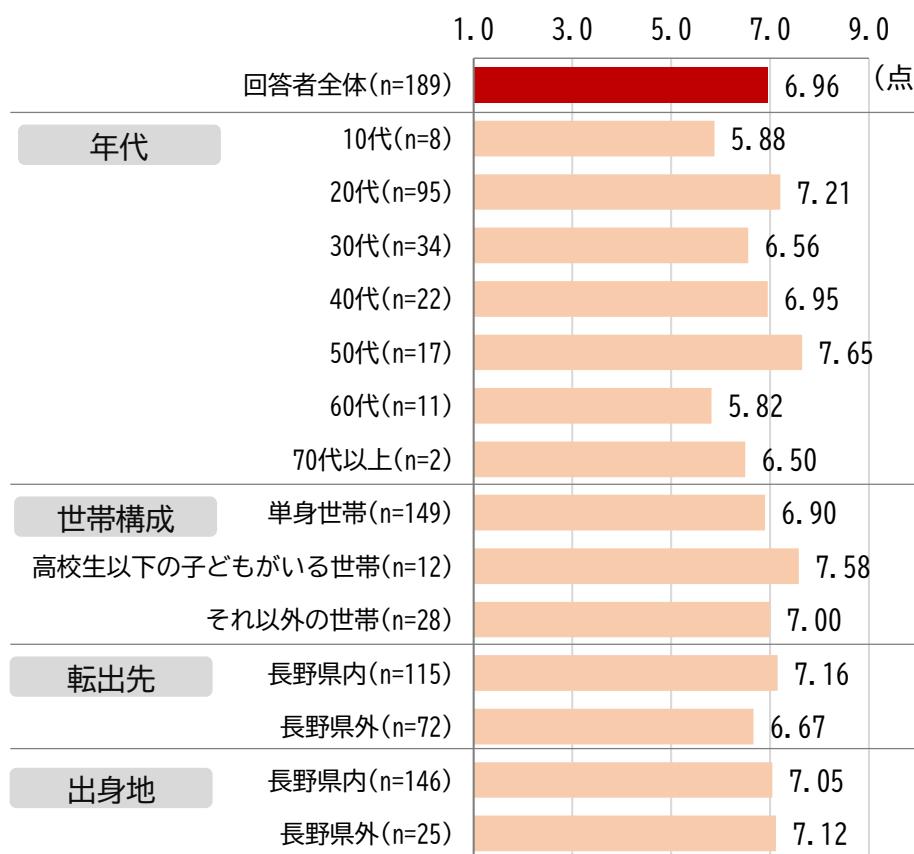


転出者の友人への町に居住することへの推奨度は6.96点。10代、60代で低い

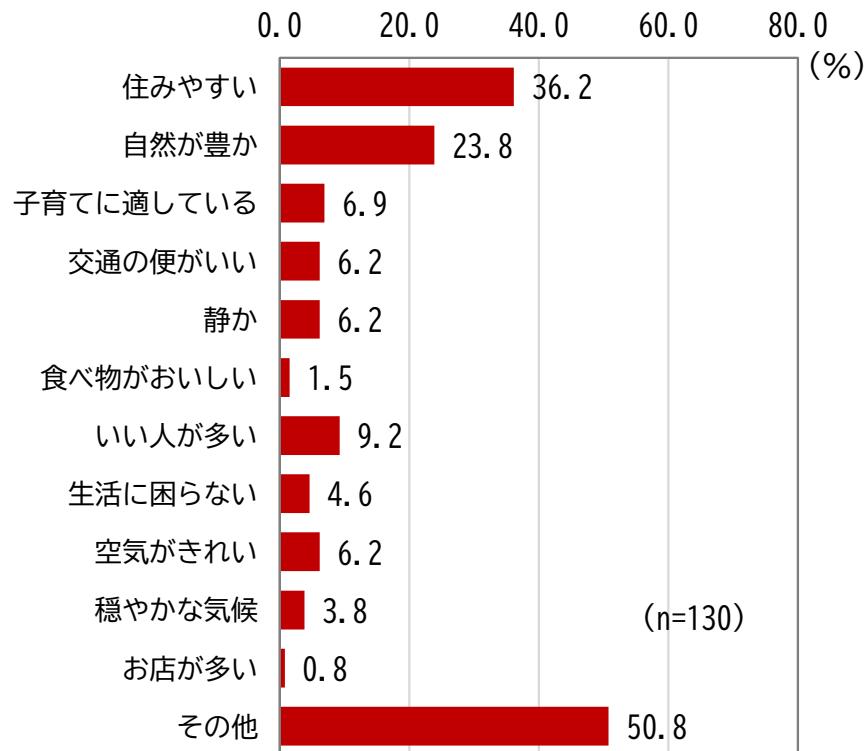
- 転出者が佐久穂町に居住することを友人に勧めたいか（推奨度）をみると、全体では6.96点となっています。±1点以上の差がある属性をみると、10代、60代は低くなっています。
- 転出者が推奨することをみると、「住みやすい」「自然が豊か」などが上位にあがっています。

■転出者が、佐久穂町に居住することを友人に薦める可能性

0点が「薦めない」～10点が「薦める」である



■転出者が推奨すること



出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」

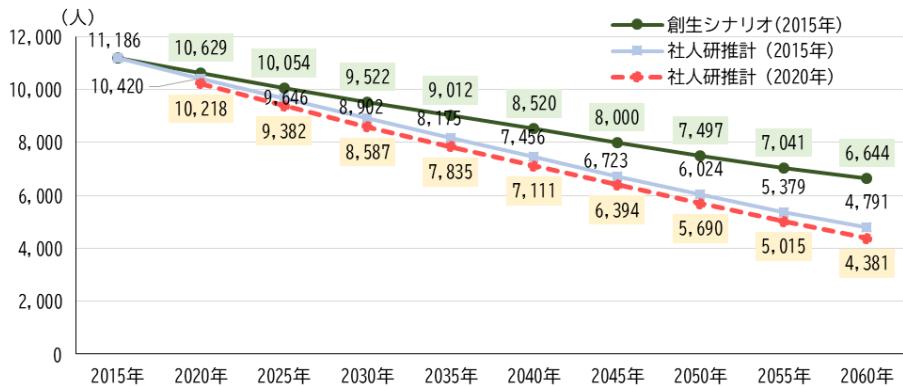
第3章 人口の将来展望



- 第1期戦略に引き続き、「2045年に小学校入学時1学年2クラス（70人）を維持できる人口」を目標とし、2045年時点で8,000人の人口の確保を目指します。しかしながら、2020年基点の将来人口推計を見ると、目標人口（創生シナリオ）と推計値との乖離が発生しており、6歳時点の人口についても同様に目標人口との乖離が大きくなっています。
- 今後目標値に達するためには、自然動態、社会動態においてより高い値を実現する必要があります。

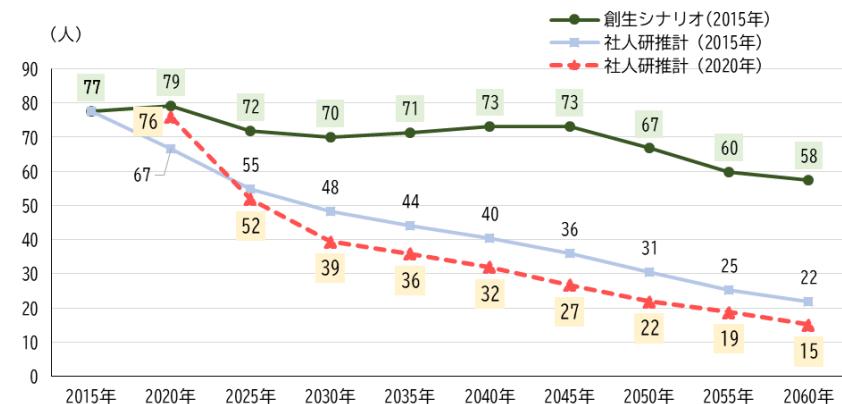
■全体の目標人口（創生シナリオ）

創生シナリオと社人研推計の比較（総人口）



創生シナリオと社人研推計の比較（6歳人口）

※6歳人口は5~9歳人口の按分によって算出



◆創生シナリオにおける仮定

内容	2045年 推計人口(人)	合計特殊出生率	転入・転出 2015~2045年の平均 (2015~2020年の平均)
【創生シナリオ】 (社人研推計+出生率上昇+社会増減を考慮) ★2045年に小学校入学時 1学年2クラス（70人）を維持	8,000	【町民希望出生率まで上昇】 2040年から1.96 (それまで一定割合で上昇)	約-6人/年 (約-9人/年)

出典：創生シナリオ
佐久穂町人口ビジョン（2015年）
社人研推計
国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口
(平成30（2018）年推計)」
「日本の地域別将来推計人口
(令和5（2023）年推計)」



- 社人研推計（2020）の年齢区分別の人口を見ると、生産年齢人口（15～64歳）の比率は、2025年には50%を下回り、従属人口（0～14歳+65歳以上）と生産年齢人口が逆転します。その後も、生産年齢人口比率は、長期に渡って減少し続ける見通しであり、産業や福祉、地域活動などにおいて担い手不足が深刻になっていくことが予測されます。
- 近年、健康寿命が延伸し、高齢者の労働参加率も高くなっていることから、仮に75歳までを（拡大）生産年齢人口と定義すると、2070年でも（拡大）生産年齢人口比率は50%以上を保つことができます。

■社人研推計（2020）の年齢区分別の内訳

